

# 漢字半紙

※半紙を縦にして使用

小久保嶺石書

色即是空  
しきぞくぜくう

色 是  
即 空

〔典故〕般若心経  
〔大意〕

この世に存在するすべての物事は本来そのまま空であり、無である。

〔解説〕

○楷書に近い行書を学ぶ。

○「どんな字形と用筆で書かれているか」「起筆、収筆、筆脈がどんな強さや流れで書かれているか」注意してみよう。

色…「ク」と「巴」の組合せ。二画目の横画は点を打つ気持ちで。最終画は鳥が浮いたイメージでまとめる。

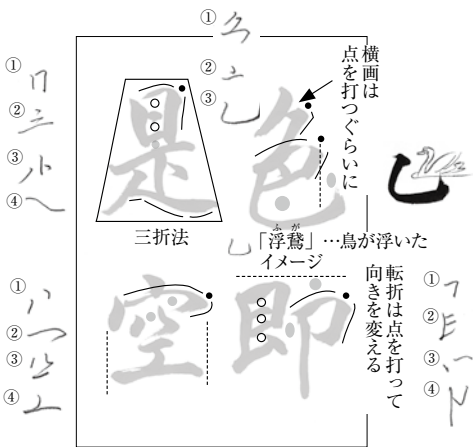
即…「艮」と「口」（ふしづくり）の組合せ。偏と旁の位置に気をつけよう。

是…「日」と「疋」の組合せ。台形に象り伸びやかに。

空…穴冠と「エ」の組合せ。筆脈に留意して、冠の中に「エ」を収める。

〔用具・用材〕

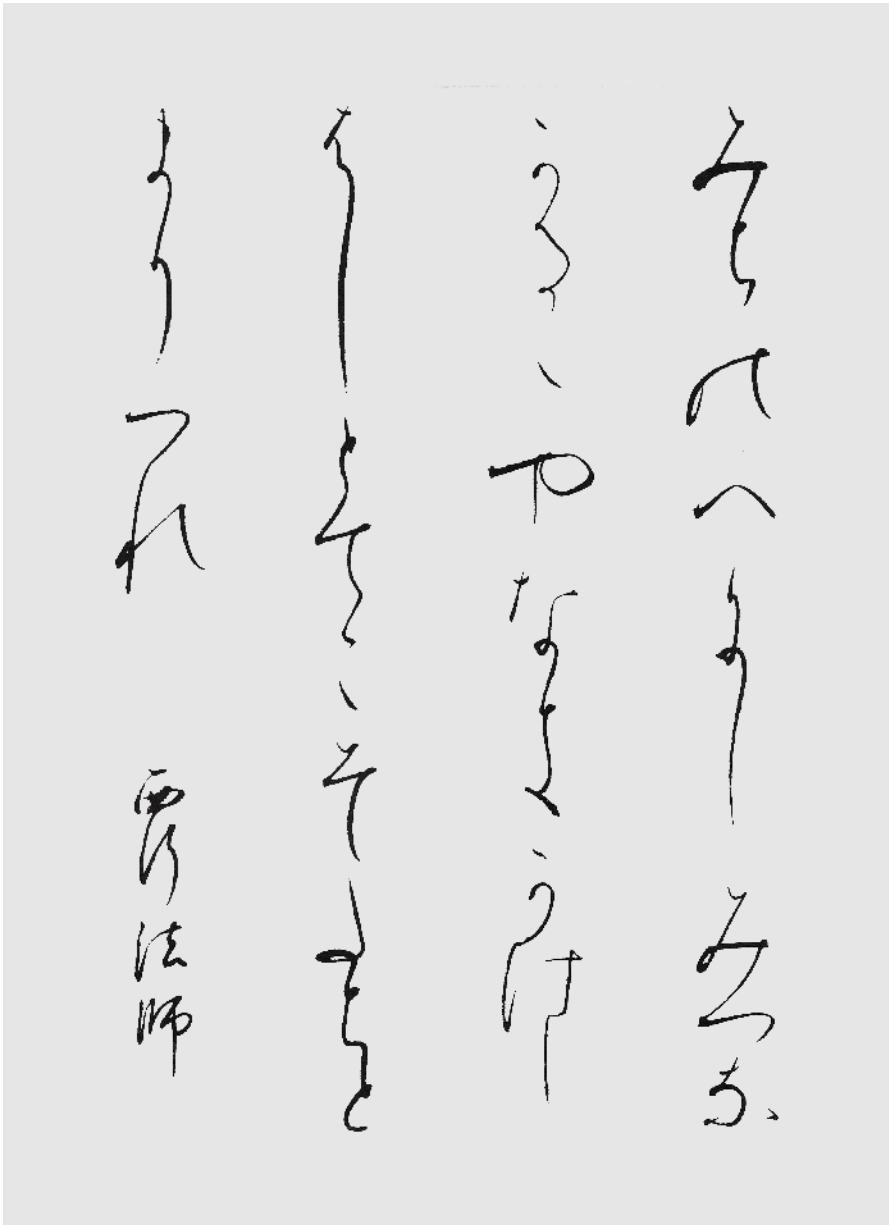
筆 和筆兼毫 墨 和墨 紙 手漉半紙



# かな半紙

※半紙を縦にして使用

『梅雪かな帖(中)』より



みち能へるしみつ奈 可るゝやな支可けし 者しとてこそ多ちと 末りつれ 西行法師

## 〈読み〉

道の邊に清水ながるゝ柳かげしばしとてこそ  
立ちどまりつれ 西行法師

## 〈解説〉

半紙に和歌一首を書く時の基本となる四行  
書きを書きましよう。

行間はほぼ均等で、最終行に和歌の最後と  
作者名が入っています。(作者名は入らないこ  
ともある)。一行が長いので、下方向への動き  
を意識して、のびやかな線を引ましよう。

連綿が多用されています。連綿線は弱く  
ならないようにしっかりと書き、下の文字の  
第一画まで続けます。連綿線から下の文字  
に入るところ(「みち」の「ち」の起筆  
など)で、筆を紙から離さないことが大切  
です。ここで線を切ってしまうと連綿には  
なりません。

(川島史子)

## 【用具・用材】

筆 かな用小筆

墨 かな用半紙

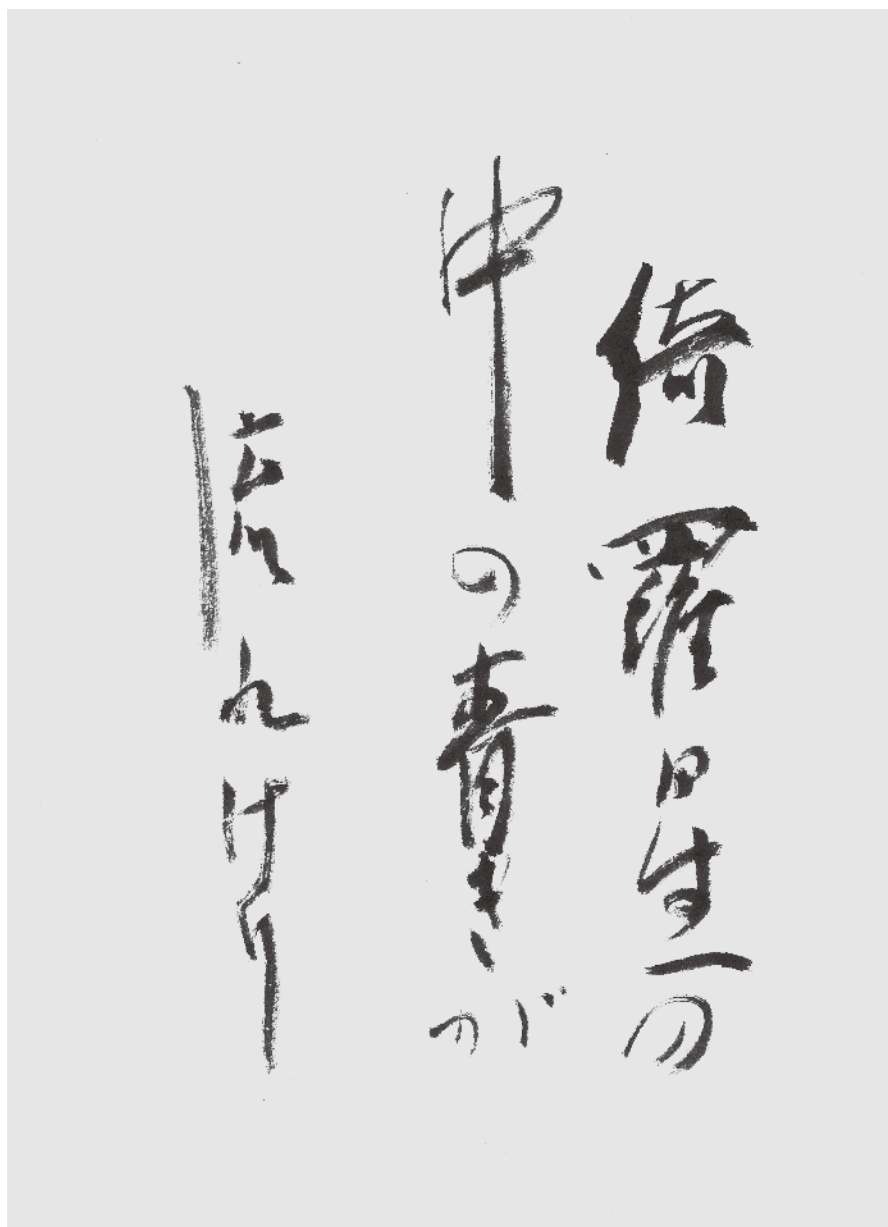
紙 かな用和墨



# 新和様半紙

※半紙を縦にして使用

石橋鯉城書



綺羅星の中の青きが流れけり

〔出典〕句集『葛飾』より

〔作者〕水原秋櫻子

(一八九二〜一九八二)

〔大意〕

大空を眺めていると、無数の星の中でひとさわ青く光っている星が、すうっと流れた。

〔解説〕

単純にして明快に、をテーマとして

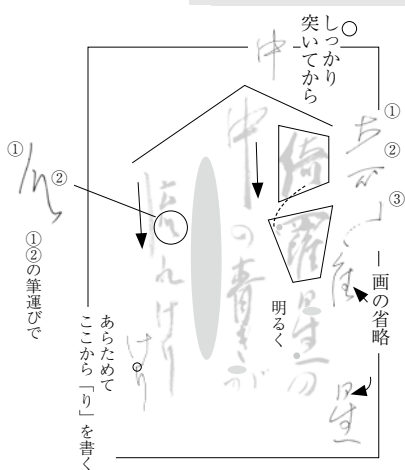
「綺羅」は筆の鋒の開閉の変化に着目し、結体は引き締める。「星」は間をとって、「日」と「生」の二字があるようにも見せる。「中」「流」の長い縦画は、ほうき星のようにすうっと長く引く。「の」は起筆・送筆・収筆の具合を少し変えてみる。

## 〔用具・用材〕

筆 超長鋒羊毫筆

墨 顕微無間

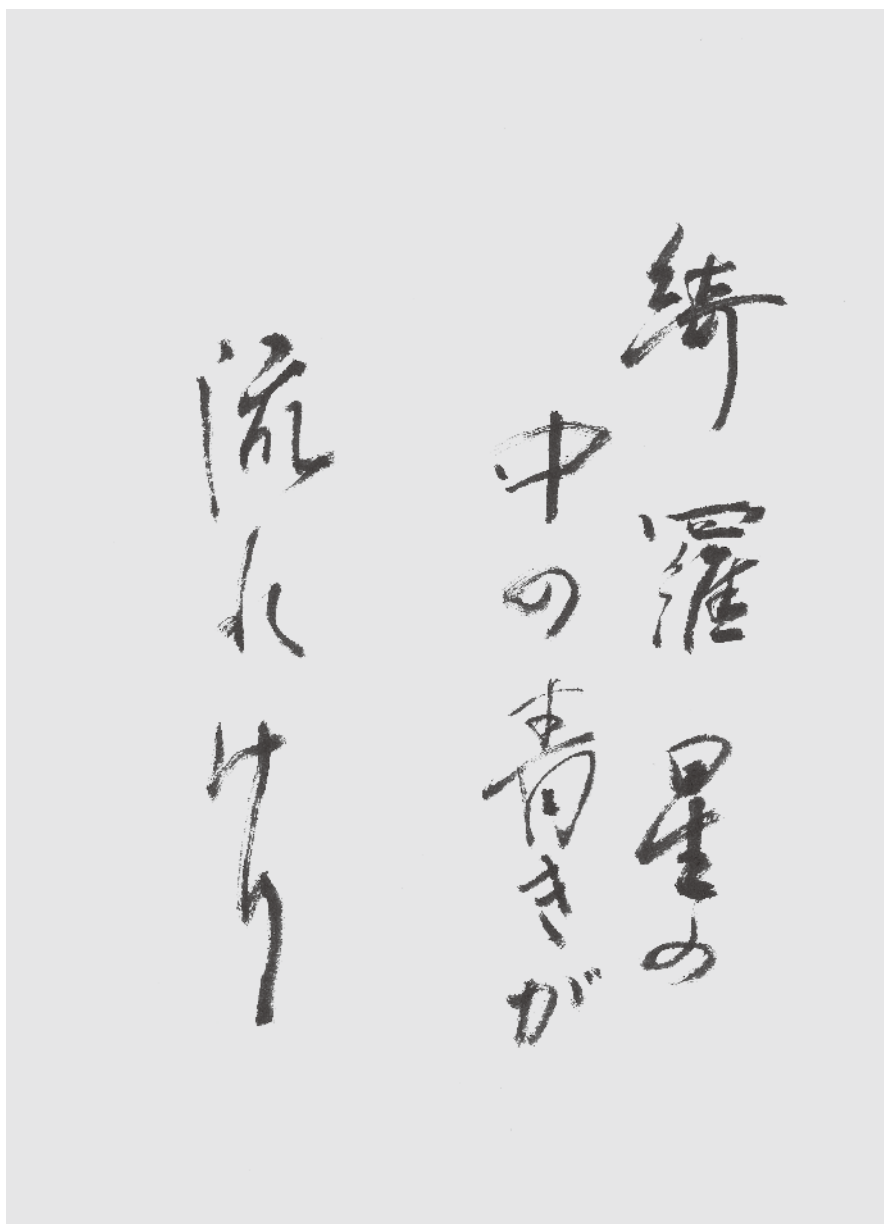
紙 手漉半紙



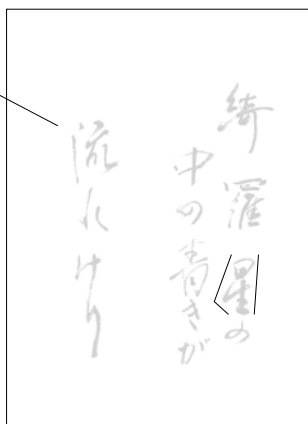
新和様半紙

(初学者向けの参考手本)

石橋鯉城書



点が省略されている(筆写体)



墨は奈良の伝統産業で寺社を中心  
 に作られ続け、今日では全国  
 シェアの約90パーセントを誇  
 っています。

墨は奈良の伝統産業で寺社を中心  
 に作られ続け、今日では全国  
 シェアの約90パーセントを誇  
 っています。

用具  
 つけペン、万年筆またはデスクペン、  
 ボールペン

〈解説〉

<p>★約90パーセントを誇っています。</p> <p>中心より左          わずかに左に</p> <p>※ 右より</p> <p>★印…いとへんのいろいろ          ※印まで上の取筆から続けて</p>	<p>に作られ続け、今日では全国シェアの</p> <p>少し戻る          ※ 中心          あわせ方          止めて          長く          止めて          長く          右よりに小さく</p>	<p>墨は奈良の伝統産業で寺社を中心</p> <p>タテ長に          少し戻る          中心より右より          長く          止めて          中央に          近く</p>
---	---	---



雪月花

〈解説〉

「雪と月と花」。美しい風物の代表的なものとして愛されてきた三字熟語。(白居易の寄殷協律の詩)より。

他に詩や書の作品評定に於いて(上)(中)(下)の三段階に代えて(雪)(月)(花)で表す事もある。天地人も同例。

三字並べるが、作品の「雪月花」の両端に充分な余白が必要な事、上下の余白についても上部より下部を心もち狭くすることになっている。これは扁額揮毫上の書式なのであって、書式に合すれば、落書き、安心して鑑賞できる。

〈書法〉

行書で書き、円の筆。(円筆。線や型に丸みを持たせ、点は丸く)作品を見ながら先ず、点画の点に注目する。

雪：雨の中に4個の点、「ヨ」の中に1点ある。第一画の短い横画も小さな点が2個と見てもよい。

月：中二つの画は2個の点に還元。書道でも数学の因数分解のように、単純化や明瞭性を際立たせる為にごんな作業をしている。こうしたことは、千字文の楷、行、草を学んだり、こうした作品づくりを行ったり、うと自然に身につくものだ。

「書写」での「塗り字」や水書き、硬筆先習などでトメ、ハネ接筆教育を進め、進めて、○×だけの評価している。これでは、日本人の表現力、認識力その他諸々の感覚の陶冶の道を閉ざしてしまう。

花：草冠の点の2個が簡明だ。草冠の型を片板名の「ソ」と「ニ」で書いている。私は「ソ」の型で書かれていた草冠と称して教えている。

〈用具・用材〉

筆＝永晶大号條幅 墨＝一味真紙＝中国画箋(単宣)半切½

〔用紙〕画仙紙半切½ たて35cm×よこ68cm) 半切を半分に切って使用

※卓上でも書ける大きさです。

作品づくりの手始めとして取り組んでみる。

石橋鯉城先生書

# 漢字扁額・中学生向け



雪月花

## 〈書法〉

誰が見ても「雪月花」と読め、違和感を感じる事なく書けるように書いたもの。

○注目すべきは「雪」「月」「花」の三字の中に現れた「縦画」と「それぞれの画」の起筆、送筆、收筆の収まり具合である。  
※氣力を充分貯え、手首や腕を柔らかくし、身体で運筆したい。

## 〈用具・用材〉

筆 ■ 永晶大号條幅  
墨 ■ 一味真  
紙 ■ 中国産箋(単宣)半切½

石橋鯉城先生書

（用紙 画仙紙半切½ たて35cm × よこ68cm）  
半切を半分にして使用

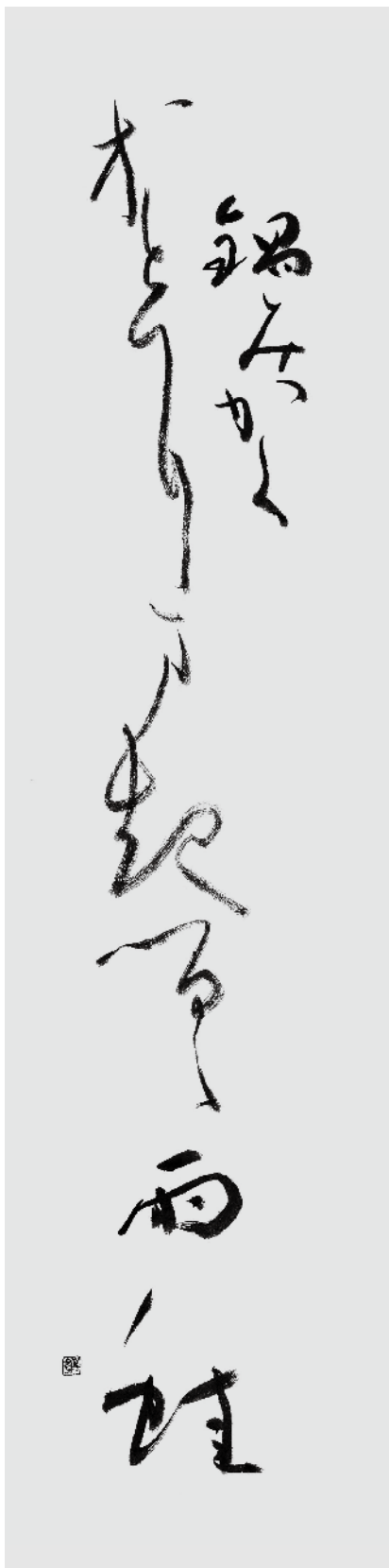
※卓上でも書ける大きさです。

作品づくりの手始めとして取り組んでみる。



# かな条幅

須山万寿先生書



鍋みかく於と耳万起留、雨蛙 あまがえる

## 〈読み〉

鍋なべみかく音にまぎる、雨蛙

〈作者〉良寛（一七五八〜一八三一・越後

出身の僧侶）

〈大意〉台所で鍋を磨く音に紛れて、外か

ら雨蛙の鳴く声が聞こえている。

## 〈解説〉

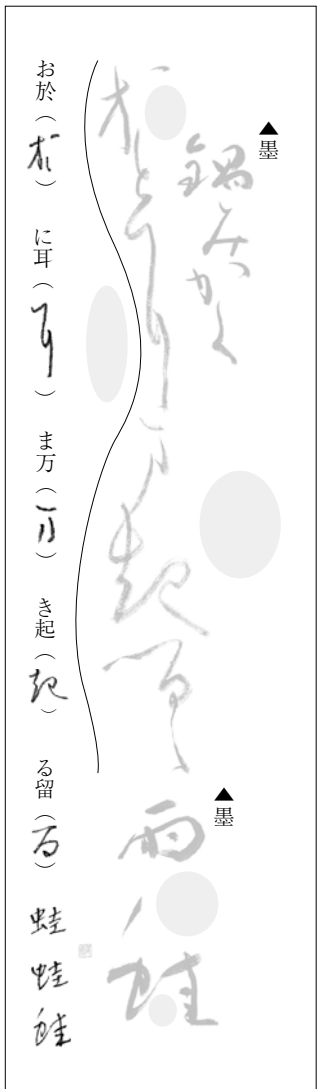
○俳句のイメージを大切にするため「鍋」

「雨蛙」を漢字にしました。

○「鍋」は騒がしくならないよう太い線で書

きます。

○「於と」は二字が一字のように短縮する連



（用紙 画仙紙半折・たて136cm×よこ35cm）

綿法です。「於」の最終画と「と」の最初

の画を共有します。

○全体にゆったり明るく仕上げてください。

〈用具・用材〉

筆Ⅱ羊毛筆

墨Ⅱ和墨

紙Ⅱかな用加工紙

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。